

【重要】免責事項。ノートPC、液晶ディスプレイのドット抜けについて

ドット抜けとは下記画像、赤丸内のように、液晶画面上にドット上の色抜けがあることをいいます。



これは初期不良ではなく正常な範囲になります。
「新品で購入したのに納得いかない」
お客様のおっしゃることはごもっともです。

今日のディスプレイは反応速度や見易さといった利点から、薄膜トランジスタ(TFT)を各画素に配置して高品位な画像が得られる、TFT液晶ディスプレイが一般的になっています。

その中で使われています液晶モジュールだけでも出来上がるまでの工程は数十にも及びます。工程では、基板(ガラス基板)に残存している表面欠陥(傷)や、各工程におけるエアフロー中のちり、装置からの微細な発塵、成膜中の異物、薬液中の異物等の雑多な原因により、各種のパターンの不良や膜の不良を生じ、これらの不良が画素に影響を与えた場合にドット落ちが生じます。場合によっては、**数オングストローム(一億分の1cm・分子レベル)**というサイズの異物でもドット落ちにつながります。

ドット落ちを完全に除去するのは現在の最高水準にあるクリーンルームをもってすら不可能とされ、現実的な対処として、許容基準を定めた出荷時の製品の選別が行われています。(メーカー基準とは1画面当たり4, 5個程度のドット落ちは許容範囲とすることが殆どです)

wikipediaより: 2, 3個程度のドット抜け製品が良品の範疇として出荷される理由は**液晶パネルに含まれる数十万~数百万画素のうちのごくわずかの画素がドット抜けであったとしても、ライン状の不良(ライン欠陥)や極端な表示ムラと異なり、実用上はなんら問題ない場合が多い**ためです。そして、**ごくわずかのドット落ちを容認することにより、TFT液晶パネルモジュールのコストが大幅に下げられるため**でもある。

特に後者については、まったくドット落ちを含まないTFT液晶パネルモジュールのみを出荷しようとすると不良品となる率が高くなる。これらの理由により、メーカーは一定数のドット落ちを含んだパネルや製品を出荷しているのが実情である。そして、そのようにして良品の範疇として出荷されたパネルの「正常な範疇」とされて、ユーザーの目に留まることになる。

尚、当然のことながらパネルメーカーは品質向上を目指し、ドット落ちゼロに向けた品質管理や各種技術開発を行っている。

2年ほど前から急激に液晶価格が下がったのはこのような企業努力があったからこそです。

当方としてもメーカーの企業努力を尊重し、ドット抜けに関しては、3, 4個以上ない限り、良品とみなさせていただきます、交換対応などは致しかねます。ご了承ください。

もし、不安な場合はドット抜け保証がある販売店から購入する形になりますが、その場合、販売価格よりも2万円程度高くなります。

尚、量販店さん等でも同様にドット抜けに関しては不良対応致しておりません。延長保証の対象外でもあります。